

G・I・グルジェフ著作集
「全体とすべて」第二集

注目すべき
人々との出会い



G. Gurdjieff

Meetings with Remarkable Men



郷 尚文 訳

グルジェフ著作集「全体とすべて」第二集。ノンフィクションとして書かれたものではないものの、半自伝的な体裁により、みずからが属していた「真理の探求者たち」のグループの者たちを含めた十人余りの人物の人生における探求や東洋の辺境をめぐる彼らの冒険の旅のなかでの出会いと出来事に触れることで、人がみずからの内的な衝動と外的な条件との間での拮抗のなかでいかに道を見いだすかを描き出す。

アジア支配をめぐる英露間での駆け引き、グルジェフの一族に過酷な運命をもたらす民族・宗教間での対立、第一次世界大戦、ロシア革命などを背景に、宗教・民族・文化的・歴史的な多様性をはらんだ東洋の辺境をさまよい、生の目的と意味をめぐる根本的な疑問への答えを探し求める者たちの姿から、読者はおそらく、二元的な対立のなかにあって、そこから離脱することよりも、その深みへと赴くことで人と宇宙の秘密を知り、みずからを利することで人の生が放ちうる光芒と、人がそのために支払うものへと思いを向けることであろう。

本書にはおびただしい数の地名や歴史・民族・文化的な事項をめぐる固有名詞が登場する。これらは英簿版においてさえ正確に表記されていないものが多く、過去の邦訳もこの点では精読に耐えない。この新訳ではそれらを全面的に見直し、原注を含めて百五十に及ぶ脚注を加え、地名に関しては、脚注において誤記を正したり現地名を併記するなどしたうえ、地図リンクを付与した。

[Amazonストア](#)

この後、私はかなり長いことスクリドロフ教授に会わなかったが、**本文** 見則正しピアチゴルスクでのことで、彼は娘に会いにそこに来ていた。

私はベシュタウ山¹⁶²の山頂で彼と交わした最後の会話を忘れることができない。そのとき私はエッセントウキに暮らしていて、ある日、キスロヴォーツクでお互いに会ったとき、今は過ぎ去った過去のよき日々を記念して、ピアチゴルスクの近くにあるベシュタウ山に登らないかと彼は言った。

このときからおよそ二週間後の晴れた朝、実際われわれは食糧を携え、ピアチゴルスクから徒歩でこの山へと向かい、難しいほうの側、つまりふもとに有名な僧院¹⁶³がある側の岩場をよじ登った。

この登攀^{とはん}は、それをやり遂げた人がみな言うには非常に難度が高く、実際それは容易ではなかったが、中央アジアの荒野を抜ける旅とともに多くの山を登り降りしたわれわれにとっては、子供の遊びのようなものだった。それでもわれわれはこの登攀をおおいに楽し

G・グルジェフ 著
郷 尚文 訳
注目すべき人々との出会い
脚注・地図リンク付き新訳版

歴史・地理・民族・文化的背景、
第一集に由来する表現、
英語版での誤記などに関する
詳細な脚注を追加により
細部にわたる精読と
第一集からの通読を支援。



¹⁶² Mount Bechow > Mount Beshtau (БешТай): ピアチゴルスクの北西に位置する山。標高一四〇メートル。ミネラルスイエ・ボドイ(鉱泉)郡の最高峰で、「コーカサスの聖山アトス」と呼ばれてきた。[Wiki](#) | [Map](#)

¹⁶³ famous monastery > Второ-Афонский на Кавказе Успенский мужской (**脚注** の聖山アトスの聖母被昇天修道院)を指す。山頂の南西に位置する。

